

# バス停からの 小さな旅



文化の森スタッフが、あい愛バスを使った小さな旅を紹介します。

## 36 「むくの木・そうきち線」から木曾川と 飛騨川が合流するところ「川合」を訪ねて



▲今渡発電所建設に伴い、現在の場所に移転された「箱井の清水」とダム湖

岐阜県の地図を広げてみると、大川川である木曾川と飛騨川が美濃加茂市域で合流していることが分かります。木曾と飛騨、そして山と平野の文化の結節点として、まさに美濃加茂は「流れ」が「交わる」地域なのです。

山間部を流れてきた両河川はここで出会い、中流域が形成されます。昭和14年に造られた今渡発電所(今渡ダム)は、上流に多数建設された発電所によって減った水量を確保し、下流の耕作地に平均的に水を送ることが最大の目的でした。中流としての役割を示すシンボルとも言えます。

発電所ができる前、川合地区には広大な河原が広がっていました。「ホウロク」の瀬では、幅の狭い上流から流されてきた2連の筏<sup>いかだ</sup>が4連に連結され、乗り手は地元の筏乗りに交替し、下流へ運ばれ、上流と下流を結ぶ筏中継の地として栄えました。

ダム湖畔から両河川の合流点や今渡発電所を眺め、さまざま思いを巡らしていただきましたと思います。

文化の森 ☎ 28・1110



### 今回乗車したバス

行き むくの木・  
そうきち線右回り(5便)  
帰り むくの木・  
そうきち線左回り(6便)

13時08分 美濃太田駅南口  
13時17分 川合東公民館  
下車後、バス停から東側の川岸にある「箱井の清水」で水の冷たさを堪能し、付近の川沿いの道を散歩する。  
15時51分 川合東公民館  
16時00分 美濃太田駅南口

※3年間にわたり連載してきました「バス停からの小さな旅」は、今回で終了します。本連載を通して、何気ない身近な風景や文化財を見つけ、日々の生活を楽しくいただけたのであれば幸いです